

与論の活性化について

工学部 建築学科 2515230158 金沢 達也

今回、島のしくみという講義で与論島に行き、島の活性化に個人的な考えから必要なことを今から述べようと思います。

まず「農業」についてです。JAの人からの話を聞き、考えたことはわざわざ島外に売るものを作らずに、まずは今島内で農業をしている人でそれぞれ分担し自給自足的なものを作ったらおもしろいなと思いました。そしてそこから余裕が出てきたら観光客に売り、そこから本土や世界に売っていくというのが考えたことです。そうすることによっていろんな職業のひとが会話する場を設けることができ、いまよりさらに島の絆が生まれると考えました。

次に「漁業」についてです。まず、漁業の人は話が面白いと思いました。常に見えない獲物を捕るためにほかの人たちと協力するため、農業の人よりもコミュニケーション能力が上がるのかなと思いました。漁協のひとは与論で売れ残ったものは沖縄や近くの島に売りに行くと聞いてすごいと思いました。しかし、個人的には売れ残った魚を島外に出すのではなく、島内の飲食店が買い取り、それを島の人たちが食べるというように島内で経済を循環させるとさらに島がよくなるのではないのでしょうか。

次に「観光」についてです。個人的に今まで「農業」「漁業」について島の中で作り、消費するという自給自足的なものを推してきました。ここで重要になると思うのは、この「観光」という分野だと思います。資料をみると、バブル期が最大の15万人の観光客数が来島し、そこから年々減っていき現在の6万人前後に至っています。話を聞いていいと思ったのは、観光協会が主体となってイベントを行い、観光客を増やそうとしている部分です。また、修学旅行の1校1島イベントはとても面白いと思いました。確かに与論島には百合ヶ浜などいいところがたくさんあります。しかし、自分もそうだったようにあまり与論島のことを知らない人が多いと思います。実際あまり旅行雑誌でも見たことがないので、これからしていかなければならないのはもっと旅行雑誌に載せてもらうことやネットが普及している現在たくさんの旅行会社に頼み、旅行プランを増やしていくのが観光収入を増やす方法だと考えました。また、海外から日本に来る外国人がいまたくさん増えています。しかし、与論島よりすごい島は海外にたくさんあると思うので与論島にしかない伝統ある祭りを外国人に見てもらおうと好奇心のある日本好きな外国人は、ほかにもこういう祭りがあるのではないかといろんな日本の島にも行き観光客数が増え、活性化できると考えました。また、与論の民族村で言われたことが本土と台風の質が違うのにその気候に合った家を建てなか

った家がボロボロになったと聞きました。そこで家を建てる時に言われなかったのかなと思いました。与論の風土を理解している専門家がアドバイスをし、建てなければならぬのではないのでしょうか。

最後に、与論はとても良いところでした。しかし、その良いところのPRの仕方を工夫すればバブル期よりも多くの観光客が増えると思います。なぜなら、今の観光客は学生が多いと思いますが、これから世界に目を向ければ100万人も超えると思います。これからもっともっと与論が活性化することを願います。